

地域での取り組み

— 不知火町御領5区 —
熊本県職員による地震講話



不知火町御領5区では、平成19年に発足した自主防災会を中心に今回の勉強会のほか、年1回の防災訓練などを行い、多いときには区民の約3割が参加しています。

平成28年の熊本地震の際は、夜間の発災にも関わらず、訓練の経験を生かし、自主防災会のメンバーはもちろん、区民の皆さんも慌てず、避難行動ができていたと思います。

今後も「万が一」の時に冷静に行動できるよう、避難訓練などを実施していきます。

市役所での豪雨対応訓練



熊本県や警察、消防署の職員なども参加し、実際の災害を想定した訓練を行いました

青海小でのマイタイムラインの講習会



市防災消防課職員から説明を受ける児童たち

※マイタイムラインとは、大雨や台風などの自然災害から身を守るための防災計画のこと。

つくってみよう!



マイタイムラインについて詳しくはこちら(県HP)

早めの行動が命を守る

前ページで紹介したアンケートを基に、防災に対する課題と今後の備えについて、宇城広域連合消防本部から出向している防災消防課・高嶋昭徳課長補佐に話を聞きました。

避難の判断は早めに

アンケートの回答として最も多かった「自宅や周囲に異変が生じた時」に避難を開始した場合、すでに道路が冠水していたり、土砂崩れが起きていたり、避難したくてもできない状況になっている場合が少なくありません。命を守るためには、「まだ大丈夫」と油断せず、自分が考えているより早めに行動することが大切です。

地域で防災活動を

長年その地域に住んでいる人は、「どの程度の雨で冠水するのか」「どこが危険なのか」など、経験から得た知識を持っているはず。その

知識を基に自分自身が早めに避難することはもちろん、地域活動などを通して、地域ならではの危険性を周りに共有することも心掛けてください。

次ページで紹介する不知火町御領5区での取り組みも参考にしながら、「自分たちの地域でも何かできないか」と考えて行動してほしいです。依頼があれば、市防災消防課や消防署から地域や学校に講師を派遣することもできます。

災害時に、消防や行政が対応できる範囲には限界があります。日頃から地域のつながりをつくっておくことで、一人暮らしの高齢者などへの声掛けや避難支援にもつながります。地域全体で助け合える体制づくりを意識しましょう。

災害が起きる前に動く

近年、災害が頻発していることを受け、気象庁では防災気象情報に警戒レベル4相当の「危険警報」を追加し、国も危機感を強めています。そして、市も実際の豪雨災害を想定した豪雨対応訓練などを行い、災害に備えています。

市民の皆さんも、注意報から警報に変わった段階で、避難の必要性を考え、行動してください。避難先は、避難所だけでなくありません。知人宅なども含め、安全な避難先を検討しましょう。

災害が「起きてから」ではなく、「起きる前」に動く。私たちの意識が、命を守ることにつながります。

いざという時、地域で支え合うために――

大規模な災害が発生した直後には、状況に合わせて適切な避難行動を行うなど、自分自身の命や身の安全を守る「自助」が重要です。また、地域では、被災した人の救助や、子どもや高齢者などの配慮が必要な人への避難支援といった、住民同士で助け合う「共助」の力も欠かせません。

災害時に落ち着いて行動するためには、日頃から地域で避難場所や連絡方法などを確認し、備えておくことが大切です。

災害を「自分ごと」として捉え、今できる備えから始めてみませんか。



市から発信する情報を見逃さないよう事前にご登録ください!



LINE



情報メール



市防災ポータルサイト

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4までに危険な場所から 必ず避難!				
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

令和8年5月29日から
防災気象情報が
新しくなりました

← レベル4の危険警報が追加されました。



詳しくはこちら(気象庁HP)